

○ 葉山町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略のパブリックコメントの実施結果について

ページ	項目	いただいた意見	町の対応
人口ビジョン			
1	表紙・裏表紙	表紙に第4次総合計画と同様に計画期間を入れて欲しい。(平成27年度から平成31年度)裏表紙に編集・発行元の印字をして欲しい。人口動向分析をいかに精緻に試みよう、町のトレンドは人口減少である。合計特殊出生率2.0は見通しが甘いのではない。また、自治体独自で人口減対策を練るのは困難だと思う。	ご指摘のとおり、計画期間、編集・発行元を記載します。合計特殊出生率については、女性が生涯に産み育てたいと思われる平均の子どもの人数として設定いたしました。人口減少の対策については、国、県、市町村が総力を挙げて取り組むべき問題であると考えます。
2	7,11他	下段余白部分がスペースがあるので、うまく有効利用できないか。	ご指摘を踏まえ、修正いたします。
3	9,18	P9 人口増減のグラフがなだらかな曲線などではないため、ポイントのところに注釈を付けてみては？ P18 2行目 なるとき等では ⇒ なるときでは (P17の男性と同じ表現にするべき?)	P9 一番右上の2004年が始点で、時間が経過するとともに、自然増減数(縦軸)、社会増減数(横軸)が減少していることを表しています。 P18 男性、女性の表記を統一します。
4	19	県内市町村間の人口移動分析において、転入者や転出者に対する移動の理由や実情等の聞き取り調査やアンケート調査は行われていますか。もしいくつか調査サンプルがあれば教えていただきたい。同様に県外(都道府県別)への移動分析や調査サンプルがあればあわせて教えてください。	転入者世帯、転出者世帯にアンケートを実施しており、東京圏の人口移動分析も行っております。
5	34	P34の④にある“選択と集中”について。その認識があるなら、公共下水道拡張に充てる予定だった資金を、教育と福祉に回すことを明記したらどうか。今なら、町民の理解も得られるはず。下水道工事を待つ町民より、コミュニティバスを待つ町民の方が多いためでは？	教育、福祉と同様に公共施設の維持・管理も重要な課題のひとつであると考えております。創意工夫により、目指すまちづくりに必要な財源の確保に努め、町政の運営に努めてまいります。
6	36	目指すべき将来の方向について、全て述べられている。(3)の①と②の実現に向けて具体的に、積極的に取り組むべき。空き家対策の1つ、町が借り上げ又は買い上げ、若い家族の転入により、町が発展してきた40～50年前の状況を作り出す努力をすべき。財源は生ごみの自家処理を推進することにより実現可能と考える。(平成25年度可燃ごみ総量6,606トン 内生ごみ量3,964トン。処理費用トンあたり約4万円なので158,544千円 環境課資料より)	ご指摘頂いた、目指すべき将来の方向性として掲げている3点につきましては、積極的に取り組んでまいります。また創意工夫により、目指すまちづくりに必要な財源の確保に努め、町政の運営に努めてまいります。
7	38	人口ビジョンの長期的見通しにある、「2100人の増加」、「2.8ポイントの抑制」をもたらすためには、無理に観光客を増やそうとするより、そこに住み・暮らす人たちが最も享受できる施策を進め、住心地の良いまちをつくるべき。(すべての基本目標に共通して言える)	葉山町人口ビジョン・総合戦略は、地方創生、人口減少に対応するべく、将来の人口の現況と展望を示し、自然豊かなまち、葉山に移住・定住につながるような施策を掲げております。観光については、現在の葉山の良さを活かしつつ、公的観光施設の魅力向上に努めるなど、振興を図ってまいります。
総合戦略			
8	全般	「国からの要請」どおりの文言羅列整備であり、「葉山町」の明確な「将来」を示す「ヴィジョン」を発見するに至らない。「一億総活躍社会」・「地方創生」における本質的問題の提起にはあらゆる側面が存在している。我が国の「戦後民主主義社会」が過去に経験したことのない少子高齢化の進展による人口減少には、今後の社会保障問題のみならず、「成長戦略」の行方、税減収と肥大化した行政コストなど小さな地方公共団体も含んだ過去の延長線上にない「新しい時代」のための「成長戦略」の立案が急がれる。	ご指摘のとおり、日本はかつて経験の無い少子高齢化の時代を迎えております。地方創生の取り組みのひとつとして、総合戦略を策定し、その中で3つの柱である人を集めるまち、出産・子育ての希望をかなえるまち、安心な暮らしを守るまちを実現させるため、掲げた施策を着実に実行してまいります。
9	全般	具体的・オリジナルな政策の提示がありません。例えば、湘南国際村・総合研究大学・県立美術館を活用するなど葉山ならではの特化して知恵の結晶を作り出すこと。	総合戦略では、観光の振興や新しい手法による町の魅力発信など、葉山らしい独自の取り組みも記載しております。
10	全般	地方創生は、住民が主役を果たせるか否か、町内会、消防団、PTA、老人クラブ、NPO等が行政と対等に、そして主導的に協働できるかどうかの力量を試されていると思う。	地方創生は、協働の手法も含めて、創生に向けた仕組みづくり、環境を整備し、国、県、市町村が総力を挙げて取り組むべきものと考えます。
11	43	基本目標1 「三浦半島地域」という括りは、必ずしも「葉山らしさ」と一致しない。慎重な対応が必要と考える。	三浦半島地域の振興を実現するための三浦半島魅力最大化プロジェクトは、海や食などの魅力を伝え、半島全体の回遊性を高め、将来的に人口減少克服に取り組むとしております。町としても連携できる部分は、協力して取り組みます。

	ページ	項目	いただいた意見	町の対応
12	43	基本目標1	湘南の他地域と人口等の統計的数値に差はないと推定され、結果、戦略・施策内容にも差はなくなるのではないかとと思われる。個人的には目新しい内容は感じられない。湘南の一地域として競争優位を得るための独自性が必要ではないか。 H. 26～H. 31への各目標数値に年度ごとのマイルストーン設定がなく、また各数値目標のための戦術が欠落しており、裏付けがない以上、実現可能性が見えない。例えば、基本目標1では事業所数が19増加するだけで売上100億円増加は1件当たりの売上高との対比でおかしいのではないか。 さまざまな観点から施策を講じているが、肝心の町としての最終形が見えないのでインパクトに欠ける。これならば今まで通り普通にやってもできるのではないか。	人口減少は日本全体の問題であり、全自治体が総力を結集して取り組みべきものと考えます。総合戦略では、観光の振興や新しい手法による町の魅力発信など、葉山らしい独自の取り組みも記載しております。
13	44	地域産品の生産・販売の活性化	水産業に関することですが、稚魚や稚貝の放流では抜本的な対策にならないと考える。アマモの生育や森林を再生・手入れし、豊かな川づくりなどの対策に重点を置く記載に変更してはいかがでしょうか。	豊かな川づくりなどの対策については、基本目標3時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るまち施策1 緑の保全活動の促進・支援に含まれていると考えます。
14	45	商工会等と連携した事業者等への支援	創業件数の目標値100件とあるが、P43の数値目標と整合性が取れていないと感じるがいかがか。	P45に掲げた創業件数は累計であり、廃業の件数は見込んでおりませんが、創業後のフォローを主な取り組みとして掲げております。
15	46	空き家の適正管理と有効活用	空き家の利活用件数の31年度の目標値として2件は少ないのではないか。 主な取り組みとして、基本目標3施策6との連動を図り、小地域福祉活動や生きがいデイサロンの実施場所としての記述を追記するべきであると思いますが、いかがですか。	ご指摘の趣旨を踏まえ、目標値を変更いたします。小地域福祉活動やデイサロンの記述については、主な取り組みの文中、“社会資源”の中に含まれていると考えます。
16	47	観光の振興	主な取り組みの4番目の民泊の推進は削除すべきと考える。	オリンピックセーリング会場、ラグビーワールドカップ決勝開催に伴い、今後更に多くの外国人観光客が見込まれます。不足される宿泊施設を確保するべく、県が積極的な民泊の活用を進めており、町としても近隣住民等との騒音、ゴミなどの問題に十分配慮したうえで対応を図ってまいりたいと思います。
17	50	『三浦半島魅力最大化プロジェクト』との連携	現況の町内道路事情のままでの、自転車レース誘致は慎むべきである。ウォーキングイベントは積極的に誘致すべきであると思う。	自転車レースやウォーキングイベントについては、安全対策を十分に考慮したうえで、開催したいと考えております。
18	52	基本目標2	学校生活と教育環境の満足度調査は、目標年度まで継続的に行っていくのでしょうか。具体的な調査項目等詳細に関する内容を示した上で、90%という数値目標を記載すべきと考えるがいかがですか。	目標年度に満足度調査を行う予定であり、具体的な調査項目等についても現在検討中です。
19	55	子育て家庭への支援	小児医療助成件数の目標値のベースには、中学校卒業時までの拡充を見込んでの設定ですか？それとも児童数の増加を見込んでの数値ですか？根拠を教えてください。	設定する目標値を変更します。
20	56	学校教育の充実	P56の施策4について。学校の先生方は、既に過労状態と思われる。部活の指導など、外部の人材に頼れる部分は、外部に任せの方がよいのでは。先生方に余裕ができれば、それが教育の質の向上になる。更なる研修より休養が先。	中学校の一部の部活動では、既に外部指導員に指導をお願いしております。頂いたご意見は今後の取り組みを行ううえで参考とさせていただきます。
21	59	結婚を希望する男女への支援の推進	結婚支援イベントに、大きな意味があるとは思えない。結婚率が低下している理由は、主に若年層の経済状況や労働状況が悪化していることと、女性の意識が変化していることによると思われる。たとえ出会いの場があっても、結局は、男性側と女性側の要求のミスマッチが壁になってしまう。 「一般に、男性の認識は女性の認識より二十年遅れている」という説がある。男性の意識改革のためのイベントなら、まだ意味がある。 形だけの婚活イベントより、保育施設を増やすこと、保育士の待遇を上げること、学校に町費の教員や事務員を増やすことの方が先。また、学童保育の場に、勉強を支援するボランティアを入れることも有効ではないかと思われる。	少子高齢化進展に伴い、将来に渡って魅力ある町づくりをするため、いつか住みたい町・葉山へ移住・定住を促す施策の一つとして結婚支援を掲げております。後半部分については、今後の取り組みを行ううえで参考とさせていただきます。
22	62	消防組織と火災予防、救急体制の強化	消防職員については、消防力の整備指針における充足率が低い状況にあるとしているにも拘らず、充足率の目標値を掲げないのは何故か。消防団員に肩代わりをさせる施策と取れる。(第四次葉山町総合計画と同様)	ご指摘の趣旨を踏まえ、消防職員の目標値を追加します。
23	63	災害に強いまちづくりの推進	訓練回数の32回という数値の根拠を教えてください。	女性防火防災クラブ訓練8回、自主防災組織訓練20回、津波訓練1回、その他3回の計32回としております。
24	65,他		記述の面 「生かす」より「活かす」、「生き生き」より「活き活き」の方が良いと思われる記載がいくつか見られます。ご検討をお願いします。	”生き生き”、”活き活き”ともに、使用上に差異がほとんど無い事から現状どおりの表記とします。
25	67	“未病”を治す取り組みについての連携	健康増進施設は町内に誘致すべきと考えるが、主な取り組みにその旨の記載が必要ではないでしょうか。	現時点では、町外の既存の施設を中心とした健康増進施設の活用を進めており、町内への誘致は考えておりませんが、主な取り組みに記載してありますとおり、葉山体操や貯筋体操など自宅等でも手軽にできる体操の普及や県、三浦半島4市一町と連携して健康増進事業に取り組んでまいりたいと思います。